

1. 実関数・関数解析合同シンポジウム（以下、合同シンポジウム）の開催について

- 1. 現状を維持し、開催を続ける。 17 名
- 2. 発展的な展開を考えるべきである。 17 名

設問 1 のコメント

- 2. 講演時間を減らし、講演数を増やすべきである。
- 2. 他の分野を知るよい機会だが、総花的では困る。
- 2. もっと研究分野を関連させる。
- 2. 遠くでの開催は旅費がかかる。
- 1. 外国の研究者を招聘し、国際的にすべきである。
- 2. 自分の研究分野との連帯を深めたい。
- 1. 方針がはっきりするまでは、現状を維持すべきである。
- 2. 2～3 年前に重点課題をきめて、それに沿った講演者を人選すべきである。
組織委員は外国人の招聘を選択肢に入れ、1 年以上かけて人選する。
- 1. 現行のシステムでは発展的展開は難しいと思う。
- 2. 工学部系の人にも発表の機会を提供すべきである。
- 1. 現状で十分に意義がある。
- 2. 開催を続けながら、共同研究や重点研究を設定し、発展的な展開を考えてはどうか。
暫定案で開催を続けるのは難しいのではないか。
- 1. 今まで継続した歴史的意義を尊重すべきである。同時に新しい研究内容に対応できる体制が必要である。100 年ぐらいの長期構想をたてるべきである。
- 1. 経費節減を図り、予算が潤沢であれば国際会議にする。
- 1. 現状で十分に意義がある。
- 1. 自分の分野以外を知れることは意義がある。しかし合同にこだわる必要もないと思う。
- 2. 自分の分野との関連には興味がある。それ以外もそれなりに意義はある。
- 2. 現状をもう少し発展させるとよい。
- 1. 開催は続ける方がよいが、現状を維持する必要はない。
分科会形式と全体会議を併せもつ形であればよい。
- 1. 学会の分科会に従属している現状を維持すべきである。
- 2. もっと幅広い分野を視野に入れるべきである。自分の分野の研究発表の場としての機能は維持したい。
- 2. 共同研究や重点研究を設定し、他の分野も加えることも視野に入れる。
- 1. 他の分野からの参加や講演も受け入れるようにする。
- 2. 時代に合わせるのが適当である。

- 2. グループにまたがる発表がされていないのは問題である。情報交換としては役立つ。
- 2. 名称を替え、発展的に考えるべきである。
- 2. もっとお互いの理解を深めると必要がある。

2. 合同シンポジウムのカバーする分野について

- | | |
|-----------|------|
| 1. 現状で良い。 | 20 名 |
| 2. 再編する。 | 14 名 |

設問2のコメント

- 1. 分野を広げすぎると分散してしまう。
- 2. オーガナイザーの主観で決定すればよい。
- 2. 研究対象を複合化するために、広げるべきである。
- 1. 現行で幅広い分野の発表がある。
- 1. 現行で各分野の様子が分かる。
- 2. もっとカバーする分野を広げるべきである。
- 1. はっきりするまで現状を維持すべきである。
- 2. 将来の展望も視野に入れて再編すべきである。
- 1. 委員会の組織として現状で良い。
- 1. このようなシンポジウムがあって良い。
- 2. 応用面と理論面とで分けてはどうか。
- 2. 発想が異なり、理解できない分野については手直しが必要である。
- 2. 現状をベースに関連分野を広げるのが良い。
- 1. 現状で良いが、自分の研究分野に関連する話題が増えて欲しい。
- 2. 研究に関連する分野は必ずカバーして欲しい。
- 1. 現状に不満はない。
- 1. もう少し限定しても良い。それぞれの分野の研究はそれぞれの分野の研究集会でカバーすれば良い。
- 2. 幾つかの分野は再編すべきである。
- 2. 研究の進展によっては他分野を加えても良いのではないか。
- 1. 他分野からの参加を受け入れるべきである。講演タイトルにも工夫が必要である。
- 1. 現状で良い。

3. 発展的な展開を考えたとき、合同シンポジウムの名前は？

設問3のコメント

調和解析・関数解析シンポジウム

こだわる必要はない。英文名を付けるべきである。

実解析・関数解析シンポジウム

解析学総合シンポジウム

解析数学シンポジウム

数理解析シンポジウム

解析学シンポジウム

偏微分方程式と調和解析

調和解析

調和解析・関数解析シンポジウム

4. 共同研究や重点研究を設定できるでしょうか？

設問4のコメント

偏微分方程式

難しいと思う。

代表者や賛同者がその目的で研究費を申請すれば良い。

調和解析

重点課題を決めるべきである。組織委員会の最大の任務である。

共同研究は難しいと思う。

海外の事例を参考にする。

無理かと思う。

多数の共同研究や重点研究が生まれることが理想である。

非可換調和解析

特殊関数

他分野との交流を図れるテーマが良い。

実解析的手法にもとづく研究テーマ。

可能性はあると思う。

関数空間論

ポテンシャル論

特異積分論

擬微分作用素論

特殊関数論

個人の自発的な判断に任せるべきである。

調和解析と微分方程式

特異積分論

5. 合同シンポジウムを数年おきに国際シンポジウムとするのはどうでしょうか？

設問5のコメント

1. 賛成	28 名
2. 反対	3 名

1. テーマを設定し開催する。
2. 総花的な現状ならば反対する。
1. 海外の研究者との交流が深まる。
2. 大きくしすぎると参加しにくくなる。
1. 国際シンポジウムが立ち上げられれば売りになる。
1. 語学の習得の良い機会になる。
1. 交流が深まるので良い。
1. 間隔を決めずにいつでも議論の対象にすべきである。
1. 国際化の時代の中で考えるべきである。
1. 無理のない範囲でなら良い。
2. 合同シンポジウムでは広すぎる。招待講演で招聘するのは良い。
1. 交流を図る上で有意義である。
1. シンポジウムはオープンな方が良い。
1. 資金の問題はあるが、交流ができるので良い。
1. アジアを中心に考えるべきである。
1. 活性化されるし、時代の流れである。
1. 活性化されるし、グループの構成にも影響するのではないか。
1. 経費の捻出方法に対して、十分な検討が必要である。
1. 海外との交流は大いに深めるべきである。
1. 経費の問題はあるが賛成する。
1. 外国にならって日本でも国際シンポジウムを積極的に行うべきである。

6 . 学会の「実函数」「関数解析」という分科はどうですか？

お答えいただきありがとうございました。この設問に対する集計は以下の理由により、非公開とさせていただきます。

アンケートの趣旨でも説明したように、この設問も話題を喚起するために設定しました。しかし分科会の編成のような学会組織に関する調査を、この科研費を用いて行うことに問題はないか。また回答数（29 名）の意見はいくら個人的なものであるといえ、公式の調査結果として公開することは、設問の大きさからみて興味本位過ぎないか。これらの点により非公開としました。